

在京石鳥谷 町人会だより

(題字 旧石鳥谷町長 高橋 公男 氏)

在京石鳥谷町人会だより

事務連絡所 花巻市東京事務所内

〒100-0006

東京都千代田区有楽町2丁目2番2

号(数寄屋橋大雅ビル3階)

TEL:03-3573-5773 FAX:03-3573-5727

事務局 〒187-0031 東京都小平市

小川東町1817-39

大竹雅夫方 ☎&FAX 042-332-3025

あいさつ



在京石鳥谷町人会

会長 高橋 弘美

大変厳しい暑さに見舞われた今年の夏も何とか凌ぎきり、実りの秋を迎えている今日この頃であります。会員の皆様にはお健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて私は、九月初旬にふるさと石鳥谷に出向きまして、石鳥谷総合支所並びに、当会を協賛頂いております企業の皆様へご挨拶にお伺い(個人も含め十五社)して参りました。各社様とも大変お忙しいにも係らずお時間を割いて頂き且つ、今年度の総会・親睦交流会への協賛品のご提供もお約束下さいました。誠にありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

その挨拶廻りの途中で、写真に掲載しました『八幡田んぼアート』に出くわしました。高台にある石鳥谷公民館の駐車場から東の北上川方面を見下

ろす田んぼの中にそれはありました。絵や文字となっている黒や茶色の部分も稲であり、四種類の古代米とひとめぼれで描かれているそうです。デザインは宮沢賢治の童話「どんぐりと山猫」をモチーフに震災復興応援メッセージを発信しているとのこと。なんともかわいらしいデザインですが、JRの線路越しの三〇アールの水田に描かれた様子は、こうべを垂れつつある稲穂とも相俟って、とても力強いメッセージを感じました。



八幡の田んぼアート (9月初旬)

ご挨拶の当日(九・一〇)は実は石鳥谷まつりの日であり、約四十年振りにふるさとこのまつりを楽しむことができました。当時に比べて、各地区の保育園児の山車・神輿・さんさ踊りパレードや、小・中学生の吹奏楽、女性の手踊りパレードなど、約二十前後の

演目・イベントが組まれていて内容の多さにびっくりしました。又それらが伝統の神輿・山車パレードと併せてまつりを大いに盛り上げており、関係の皆様のご協力とご努力に深く感動して参りました。

在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会は今年で二十五回目を数えるに至りました。ここ数年は石鳥谷の皆さんによる郷土芸能の演舞を頂いております。伝統芸能継承のため日々練習を続けられた成果の発表の場としても定着してきたように思っております。ふるさとの皆さんは花の東京の上野で、石鳥谷各地域の伝統芸能を披露できることを大変楽しみにしているということも伺いました。

このように石鳥谷では様々な取り組みが行われていることを改めて感じた次第です。我々町人会としても、会員同士の交流を深めながら、ふるさとかからお越し頂く熱い思いの方々をしっかりと受け入れ、双方が感動できる体制やステージを一層整備し、発展させていくことが大事であると感じております。役員一同、今後も頑張っておりますので、どうか会員の皆様のご協力、ご支援を引き続きお願い申し上げます。

全国ミニバスケット大会

観戦記

熊谷 四郎
(八日市出身)



Cブロック 第3位入賞

三月二十八日(水)〜三十日(金)、代々木体育館で大会が行われた。

石鳥谷町からの選手(父兄・ご家族、チーム関係者と町人会から五人参加での応援。岩手県予選を勝ち抜き、全国大会に出場。

予選トーナメントを勝ち抜き、準決勝に進むも残念ながら敗退。子供たちはくやし涙でしたが大三位入賞はみことして、日々の練習と努力の結果であり、また新たに上を目指す目標ができ、子どもたち・チームのこれからの励みとなるでしょう。

子供たちの一生懸命のプレイは私たちに、感動をあたえてくれました。皆様の応援に感謝いたします。有難うございました。

近隣ふるさと

役員懇親会開催

M・K

四月二十二日、近隣ふるさと会役員懇親会が行われました。出席者四十七名で大いに盛り上がりました。

近隣ふるさと会とは、岩手県中央部分出身八地区の在京会で構成されています。

本年は十八回目の開催で幹事担当は在京石鳥谷町人会でした。会場は足立区にある西新井大師山門前の割烹清水屋さんを選びました。理由は西新井大師は関東三大師の一つでこの時期は牡丹の花・うまくいけば藤の花が見られる事と、山門と本堂を眺めながらの宴も風情があると考えました。



西新井大師 (関東三大師)



牡丹が満開の頃

あいにくの曇天模様、牡丹の花はこの春の寒さの影響で三〜四日遅れで咲き始まり、藤の花はつぼみの状態でした。すこし計画が狂いましたが役員懇親会は予定より五分遅れでスタート、高橋在京石鳥谷町人会会長の歓迎挨拶、次回担当幹事の菊池大迫人会会長の乾杯発声で宴会が始まりました。



みごとな しだれ桜

飲み物はなんでも飲み放題で皆さん

自分の好みを片手に懇親を深めていました。途中各在京会の出席者の紹介と近況報告その都度、歓声と拍手で大盛り上がりでした。また其々記念写真を撮り合い、皆さん良いお顔でした。大竹副会長のお礼と閉会挨拶でお開きとなり、料亭さんからのお土産を頂き其々帰途につきました。が・・これで終わる訳がない二十人位?二次です。



門前商店街

店に入りきれず通路に縁台を持ち出しそこでまた宴会でした。二次会も終わり帰路につきましたが生憎天からポツポツと降り始めました。終わったのは何時か? 始まりは十二時でしたが終わった時間分かっていません。飲みすぎでした。

元祖下町
「人形町」

山口 建 (石鳥谷出身)

今回の下町散策は「日本橋人形町」。五月二十七日(日)、お天気にも恵まれ、総勢十名での第十一回散策となりました。

「人形町」と聞くと皆さんは何を思い浮かべますか。水天宮と答える人は信心深く、明治座と答える人は芝居好き、銭形平次と答える人はテレビ好きというところでしょうか。ということで今回は「what is 人形町?」あまり知られていない人形町を巡りました。

人形町は江戸時代、歌舞伎、浄瑠璃、人形芝居が盛んな地域で人形使いも多く暮らしていたためにこの地名がついたようです。江戸時代の初期には遊郭の旧吉原があり、その名残で大門通りが残っています。また芝居小屋もたくさんあり昼夜を問わず庶民の盛り場として賑わっていたようです。しかし遊郭は明暦の大火に遭って、芝居小屋は天保の改革によってどちらも浅草に移されました。そして新吉原と、猿樂町の

芝居小屋へとつながっていききました。人形町は今、大ビジネス街に変貌し、昔の面影は石碑や記念碑でしか知ることができない所も多いですが、神社仏閣にはそのまま残されている所もあって、昔を偲ばせてくれます。



水天宮

水天宮、大観音寺、小網神社を巡りましたが親しみやすい下町の趣があり散策にはお勧めです。当日小網神社は御大祭の宵宮にあたり、境内でめずらしくバイオリンの演奏を聴くことができました。

浜町の隅田川のもとに出ると、関東大震災の時、ただひとつ被害のなかった新大橋で難を免れて助かつ

た人々が建立した震災避難記念碑があり、その碑文にしばし当時を偲ばされました。その後、浜町公園に出て都会のオアシスで森林浴を楽しみ、最後は人形町を代表する人形師結城ジュサプロウの館を訪れました。ジュサプロウの妖艶な人形にはすっかり魅了されてしまいました。

時代の流れの中で人形町は、その文化の多くを浅草にゆずった感があります。しかし今回じっくり歩いてみて人形町は心の遺産、庶民の遺産をたくさん隠し持っている町ということを教えてもらいました。「見る」「食べる」「遊ぶ」の元祖下町へどうぞ足を運んでみて下さい。新しい発見に出会えば幸いです。



人形町駅前に集合



小網神社



文豪 谷崎潤一郎生誕の地の碑

ふるさと復興支援 ツアー記

柳原 政義
(八幡出身)

去る六月十六日(土)～十八日(月)、花巻・石鳥谷・大迫・東和の在京会による、ふるさと復興支援ツアーが行われました。参加者は三十九名でした。今回は東和町友会の企画担当で、とても胸を打たれたり、感動させられるコースでした。

岩手沿岸被災地視察をして元気を贈ろう！ツアーに我が石鳥谷はメンバーの知人を合わせて八名が参加して三・一・一&ふるさと岩手の文化の再認識してきました。東和町友会の蟹澤さんの至れり尽くせりのお世話で充実した旅をすることができました。初日の宿泊先の花巻温泉では大石花巻市長のご挨拶と会食する事ができ、大歓迎と夢のある花巻を語って頂きました。



主目的の被災地、大槌の現状を目のあたりにして自然の猛威・人間の力の小ささ・先人の教訓・復興支援の最大の力となるはずの政治のお粗末さ等々考えられ、一同早い復興の実現と日本人の誇りの回復を祈りました。



被害の説明を下された方
(津波で奥様を亡くされています。)

大槌町役場正面に置かれた供養の花



がれきと化した図書館

もう一つの目的の手始めは、平安のいにしえを偲ぶに最適な小雨降る中尊寺のお山を散策しました。遠野では語り部から昔語りを聞いて童心に戻り、次に土沢の生んだ日本前衛画家・萬鉄五郎の記念館、一木彫りの成島の毘沙門天をと、普段触れることのできない豊かな文化を楽しみ、最終日は狛鼻溪の穏やかな水の流れをユーモア溢れる船頭と遊び、岩手を後にしました。来年は我が石鳥谷が当番との事、皆さんよろしく頼みますよ。



家族・親戚に残したメッセージ



毘沙門天



狛鼻溪川下り



昔語り

むかし、むかし、あるところの村に、大きな沼があつて、魚っこアいっぺエえだつたとき。

村の若者だち、その沼さヤギをかげで、(薬を入れて) 雑魚だの、何だのみんなとるべしとして、仕度してらつたとき。

したれば、そこさひとりの庵坊(あんなぼ)さんが通りかがつて、

「おめえさんだち、何してらるこだ」
つて聞かれて、若者だちア、

「おらだちア、いま沼さヤギかげべど思つてらア」

「やや、かわいそつだな、そんなことさねエんだ。老人(としやう)だばな、まず死ん

でもいいんだとも、幼(こ)さえものア、今

殺(ころ)されて獲(と)えでしまつたらかわいそ

うだべ、そんなことアさねエんだ。

やめるんだ」

つて、くぐくぐくぐ言(い)つたんだとわ。

気短(きたん)なひとりの若者(わかしやう)ア

「何(なに)つ、このくそ坊主(ぼくしゆ)、うるせえーな、どこの坊主(ぼくしゆ)だ、そつちさ引つ込んでろつ」つて、赤飯(あかひん)の固(かた)くなつて竹(たけ)の皮(かわ)さ包(くる)んでだつたのを三(さん)つ持つてだつたがら、プーン、プーンと投げだんだとき。

したれば(あんなぼ)庵坊(あんなぼ)さん

「はア、もつてエねエ、もつてエねエ、こんな立派(りっぺい)なもの」

つて、古(ふる)なつた赤飯(あかひん)を一粒(いちりゅう)残(のこ)らず拾(ひろ)つて食(た)つたとき。

若者(わかしやう)だちア、そんなこと氣(き)にかけねエで、ヤギ(やぎ)をかけることばがり考(かん)えでらつたとき。

しばらくして、仕度(しど)が終わ(わ)つて、沼(ぬま)さヤギ(やぎ)かげだとき。ヤギ(やぎ)かげるつたつて、いろいろなもの混(ま)せて薬(くすり)を作(つく)つて、沼(ぬま)でも川(かわ)でも撒(ま)げば、川(かわ)だの沼(ぬま)にえだ魚(うい)っこんだア何(なに)でもみんな死(し)ぬんだとわ。



ヤギ(やぎ)をかげで、くぐくぐくぐ言(い)つて沼(ぬま)

行(い)つて見(み)だれば、大(お)っきなもの、ヘアッコなもの、みんな死(し)んで、白(しろ)なつて浮(う)がんでえだつたとき。若者(わかしやう)だちア、網(あみ)つこでとつて、あどア、水干(みずぬ)したすも。それがら、大(お)っきな棒切(ぼうぎ)をもつて、ドスツ、ドスツと沼(ぬま)の土手(どて)突(つ)いで歩(あ)つたとき。

したれば、大(お)っきなウナギ(うなぎ)が、グレグレと苦(くる)しがつて出(で)てきたがら、引(ひ)つ張りあげだところ、誰(たれ)も見(み)たこと(の)ねエ見事(けんじ)な大(お)っきなウナギ(うなぎ)だつたすも。

「えがったな、えがった。大(お)漁(い)だ」
若者(わかしやう)だちア、みんな魚(うなぎ)ア分(わ)けだすども、大(お)っきなウナギ(うなぎ)ア、分(わ)ける方法(かた)ねがったがら、切(き)つたんだとき。切(き)つたら、ボロボロ、ボロボロと、小豆粒(こまぢり)だの、米粒(こめ)だのこぼれだんだとき。不思議(ふしぎ)だなアつて話(わ)してえだれば、ひとりの若者(わかしやう)ア

「はア、何(なに)してだが分(わ)つた」
つて大(お)っきな声(こゑ)たでだすも。
びつくりした若者(わかしやう)だちア
「分(わ)つたつて何(なに)や」
ど聞(き)いたすもさ、したら、

「あれア、さっきな、黒(くろ)エ衣(え)才(さい)着(ぢ)た庵坊(あんなぼ)さんえだつたべエ、あんまりうるさく言(い)つので、おれエきやすでも食(た)へつて小豆飯(こまぢい)投(な)げだつたもや、したら、

一粒(いちりゅう)残(のこ)らず拾(ひろ)つて食(た)つたつてよ。

このウナギ(うなぎ)なア、庵坊(あんなぼ)に化(か)げできて、幼(こ)せえ雑魚(ざつこ)助(すけ)べどして、おらアさし

やべつたのでねエがな、「老人(としやう)死(し)んで

もええがな、幼(こ)せえものかわいそつだべ、やめるんだア」つて、そう、切角(せきかく)言(い)つたんだ。庵坊(あんなぼ)坊主(ぼくしゆ)、われエの命(いのち)捨(す)つても、幼(こ)せえもの生(な)がしてけろつて、頼(たの)むさ化(か)げてきたんだべ」

つて話(わ)したとき。

若者(わかしやう)だちア、ヤギ(やぎ)をかけることア面白(おもしろ)がつたども、その後(のち)、何(なに)となく氣(き)持(も)ちが悪(わる)がつたとき。

若者(わかしやう)だちア相談(さうだん)して、沼(ぬま)さも川(かわ)さもヤギ(やぎ)をかけること止(と)めたとき。

どつとはれエ

(石鳥谷(いしとりや)の昔話(むかし)より)





ふるさと復興支援
ツアー写真

24・6・16(土)～18(月)

記念撮影・めがね橋にて(宮森)



大槌町役場・その日時計は止まった
今も供養の花束が絶えない



ガイド・東和町友会
蟹澤さん



山際まで津波がきた



遠野民話の里



津波で流されてきた大きな石碑



田んぼアート

上川 信行
(八幡出身)

八月八日(水)から十日(金)まで帰省しました。無人の家は雑草が気持ちよさそうに成長していました。アシナガ蜂に刺されながらも無事、草刈、お墓参りをして帰ってきました。

石鳥谷は既に秋の雰囲気です。寒いくらいでした。

今年の田んぼアートは「山猫」でした。これも夏の風物詩となると良いですね。

八幡振興センター 佐藤英進氏による

今年で三回目となった八幡田んぼアートは、六月三日(日)田植え体験事業を実施し、地域内外から百三十名の参加をいただき、四種類の古代米とひとめぼれを使用して三〇アールの水田にアートを描きました。

今年のテーマは

「賢治の思い……」

〜復興元年。

みんなで元気を届けよう!!

デザインは賢治の童話「どんぐりと山猫」をモチーフに震災の復興応援メッセージを添えました。

なお、十月七日(日)には稲刈り体験事業を予定しております。

この事です。



八月上旬の田んぼアート



会費納入のお礼とお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力ありがとうございます。

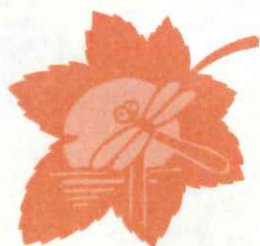
納入された会費は、会報発行費や町人会の活動のために有効に活用させて頂いております。

つきましては、本年度の年会費を郵便振替用紙にてお振込み下さいますようお願い申し上げます。

口座名義：在京石鳥谷町人会

口座番号：00180-7-261234

会計担当 山口



年間の主な予定・催し物

- ◎ 総会・親睦交流会
- ◎ 下町散策会
- ◎ ふるさと支援ツアー
- ◎ 岩手県人の集い
- ◎ 石鳥谷夢まつり
- ◎ 花巻・石鳥谷観光物産展
(阿佐ヶ谷すすらん通り商店街)

編集後記

会報の発行にあたっては、会員の皆様のご協力ありがとうございます。

気が付いた事、体験記、最近思うこと等、何でもよろしいです。原稿をお待ちしております。広報部一同、より良い会報になるよう努力してまいりますのでご指導お願い致します。

広報部